

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年8月17日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	7月の価格情報			8月の価格情報		生育及び価格の8月の見通し				
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格(平年)	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額					
		中旬	下旬				上旬			
葉菜類	キャベツ	74.19	75 (101%)	89 (120%)	74.19	85 (115%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：15,431t</li> <li>・主産地：群馬(79)、岩手(14)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬産は、8月初旬の降ひょう被害により、一部出荷できなかったものがあり、小玉での出荷となっていることもあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、高温、干ばつの影響による生育の停滞や病害虫の発生も見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>・群馬産及び岩手産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、引き続き価格は平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>		
		88.91	77 (87%)	96 (108%)	88.91	90 (101%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：4,311t</li> <li>・主産地：群馬(77)、長野(21)</li> </ul>	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	273.33	416 (152%)	329 (120%)	273.33	267 (98%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：4,601t</li> <li>・主産地：茨城(38)、青森(19)、秋田(10)、北海道(9)、千葉(4)</li> </ul>			
		487.13	305 (63%)	471 (97%)	487.13	523 (107%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：645t</li> <li>・主産地：香川(31)、奈良(15)、徳島(12)、大阪(9)</li> </ul>	
	はくさい	58.82	67 (114%)	86 (146%)	58.82	93 (158%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：5,881t</li> <li>・主産地：長野(93)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野産は、最近の高温の影響で生育が停滞していることに加え、8月初旬の降ひょうの被害から小玉での出荷となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>・長野産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>	
		62.79	71 (113%)	89 (142%)	62.79	97 (154%)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：2,494t</li> <li>・主産地：長野(100)</li> </ul>
	ほうれんそう	583.95	672 (115%)	668 (114%)	583.95	729 (125%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：771t</li> <li>・主産地：栃木(29)、群馬(28)、茨城(13)、岩手(12)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木産は、最近の高温による影響で生育に停滞が見られることに加え、病害の発生も見受けられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、作付面積が減少している山間部からの出荷となることに加え、高温の影響で生育に停滞が見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、気温が高いものの生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、最近の高温による影響で生育があまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。</li> <li>・茨城産が平年並みの出荷と見込まれるものの、栃木産、群馬産及び岩手産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>	
		670.86	652 (97%)	703 (105%)	670.86	730 (109%)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：389t</li> <li>・主産地：岐阜(82)、北海道(13)</li> </ul>
	レタス(結球)	120.13	146 (122%)	172 (143%)	158.27	152 (96%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：9,089t</li> <li>・主産地：長野(86)、群馬(11)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野産は、8月初旬の降ひょう被害から小玉での出荷となっていることに加え、一部で病害の発生が見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、降ひょうの被害は特段なく、一部のほ場で病害は見られるものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、長野産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>	
		125.61	160 (127%)	185 (147%)	152.57	161 (106%)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：2,205t</li> <li>・主産地：長野(99)</li> </ul>
たまねぎ	84.85	158 (186%)	151 (178%)	84.85	146 (172%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：9,624t</li> <li>・主産地：北海道(46)、兵庫(23)、佐賀(16)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道産は、天候に恵まれ生育は順調で全般的に豊作傾向で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。兵庫産は、これまで前進出荷傾向であったことから貯蔵物が少なく、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。佐賀産は、貯蔵物の出荷となっているが、小玉傾向であるため、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>・兵庫産及び佐賀産の出荷が平年より少なめと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年より多めと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在、平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>			
	84.85	158 (186%)	147 (173%)	84.85	152 (179%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：3,201t</li> <li>・主産地：兵庫(82)、北海道(14)</li> </ul>		
果菜類	きゅうり	210.69	269 (128%)	246 (117%)	210.69	248 (118%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：8,155t</li> <li>・主産地：福島(43)、岩手(22)、秋田(13)、宮城(4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島産は、干ばつなどの影響で一部に形の整っていないものがあるものの、特段の病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、干ばつにより草勢が弱いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。秋田産は、降雨後の高温により形の整わないものが多少あり、生育はあまり良くない状況であったものの、回復傾向にあることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・福島産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれるものの、岩手産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>		
		221.71	273 (123%)	261 (118%)	221.71	261 (118%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：2,121t</li> <li>・主産地：福島(35)、北海道(28)、愛媛(17)</li> </ul>	
	トマト(大玉)	229.51	300 (131%)	241 (105%)	229.51	225 (98%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：9,898t</li> <li>・主産地：青森(23)、北海道(17)、福島(17)、群馬(11)、岩手(9)、千葉(7)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森産は、7月は寒暖の差があったため、着色が早く前進出荷傾向となっていたが、現在は病害の発生も少なく、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は最近の高温の影響で花とびなどが見られることから、平年より少なめの出荷の見込み。福島産は、一部のほ場で病害の発生が見られるものの、全体的には生育は順調であることから、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・青森産及び福島産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>	
		271.33	310 (114%)	274 (101%)	271.33	248 (91%)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：2,441t</li> <li>・主産地：岐阜(42)、北海道(40)</li> </ul>
	なす	209.55	429 (205%)	288 (137%)	209.55	270 (129%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：5,145t</li> <li>・主産地：栃木(31)、群馬(27)、茨城(24)、埼玉(8)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木産は、一部のほ場で突風や強風の影響で擦れ果による品質の低下があるものの、病害もなく生育は順調であることから、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、最近の高温で花落ちや着果不良が懸念されるが、病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・栃木産、群馬産及び茨城産の出荷が平年並みの出荷と見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。</li> </ul>	
		221.72	343 (155%)	323 (146%)	221.72	320 (144%)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：1,222t</li> <li>・主産地：山梨(27)、徳島(11)、大阪(9)、奈良(9)、京都(8)、茨城(7)</li> </ul>
	ピーマン	251.50	442 (176%)	425 (169%)	263.58	346 (131%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：2,448t</li> <li>・主産地：岩手(43)、茨城(20)、福島(18)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手産は、干ばつの影響により一部で花落ちなどが見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、6月下旬から7月中旬の曇天の影響で生育に遅れが生じたことに加え、最近の高温による実の焼けにより、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。福島産は、干ばつの影響で生育に停滞が見られ、一部のほ場で病害が見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。</li> <li>・茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、岩手産及び福島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>	
		266.65	426 (160%)	390 (146%)	282.16	342 (121%)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：618t</li> <li>・主産地：兵庫(19)、北海道(14)、青森(13)、福島(10)、大分(10)、愛媛(7)、高知(7)</li> </ul>
	根菜類	だいこん	94.60	106 (112%)	92 (97%)	94.60	92 (97%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：9,568t</li> <li>・主産地：北海道(72)、青森(22)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道産は、天候不順により遅れていたものが出荷されたことで、現在は平年より多めの出荷となっているが、今後は高温、干ばつの影響により、一部産地で生育はあまり良くない状況に加え、病害の発生も見られることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、一部で病害が見られるものの、全体的には生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li> <li>・青森産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。</li> </ul>
			100.39	109 (109%)	93 (93%)	100.39	91 (91%)			
にんじん		133.01	103 (77%)	177 (133%)	123.08	175 (142%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：6,467t</li> <li>・主産地：北海道(86)、青森(12)</li> </ul>			
	132.62	108 (81%)	192 (145%)	123.11	176 (143%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入荷量：2,232t</li> <li>・主産地：北海道(91)、青森(9)</li> </ul>				

種 類	7月の価格情報				8月の価格情報		生育及び価格の8月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格(平年)	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	上旬	
		中旬	下旬				
いも類	さといも	344.00	561 (163%)	537 (156%)	242.66	425 (175%)	・入荷量：499t ・主産地：千葉(55)、宮崎(30)、鹿児島(10)、輸入(3) ・千葉産は、干ばつによる生育の遅れに加え、他品目の播種作業も重なり現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、播種作業が終了すれば増量すると見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、生育期の曇雨天が続いていた影響で小玉傾向であることに加え、病害の発生も見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		347.90	552 (159%)	504 (145%)	220.11	342 (155%)	
	ばれいしょ	101.61	231 (227%)	170 (167%)	101.61	145 (143%)	・北海道産は、概ね天候に恵まれたことで、生育は順調であり、収穫作業も順調に進んでいることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は、平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		101.61	249 (245%)	186 (183%)	101.61	158 (155%)	

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。  
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場へ出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東産は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

## 2 野菜の需要動向

家計調査によると、6月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,044gで前年比101%、購入金額は、2,157円で同109%となった。  
また、小売物価統計によると、7月のキャベツの小売価格は、160円で過去5カ年平均比100%、レタスは、421円で同127%となり、キャベツは過去5カ年平均並み、レタスは過去5カ年平均を上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年		
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比	購入金額(円)
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	100	1,755
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	99	1,761
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	99	1,939
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	96	2,070
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	97	2,257
6月	5,056	1,902	4,998	1,976	5,044	101	2,157
7月	4,402	1,737	4,542	1,770			
8月	4,315	1,731	4,275	1,846			
9月	4,688	1,844	4,745	2,035			
10月	5,191	1,902	5,455	1,973			
11月	4,990	1,700	5,291	1,704			
12月	5,146	1,927	5,233	1,977			

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」  
注：過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	キャベツ			レタス		
	過去5カ年平均	平成27年	5カ年比(%)	過去5カ年平均	平成27年	5カ年比(%)
	1月	212	229	108	684	827
2月	223	202	91	631	576	91
3月	205	169	82	500	511	102
4月	243	255	105	453	555	123
5月	163	273	168	365	440	121
6月	137	188	137	317	392	124
7月	160	160	100	332	421	127
8月	138			400		
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。  
2 平成27年7月の値は、7月中旬の速報値。

## 3 野菜の輸入動向

7月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比100%(中国は同94%、ニュージーランドは同142%)の3万1千トン、にんじんは、同105%(中国は同103%、ニュージーランドは同201%)の6千9百トン、ねぎは、106%(中国は同106%)の5千8百トンとなった。たまねぎは前年並み、にんじん、ねぎは前年を上回った。

野菜の輸入数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年1～6月		平成27年6月	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同月比
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	466,571	90	81,228	113
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	885,205	95	151,760	96
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	1,351,776	93	232,988	101
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	666,930	93	122,408	103
中国産シェア	52		53		49		53	

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	平成26年7月(A)	平成27年7月(B)	(B)/(A)
		数量	数量	(%)
たまねぎ	合計	31,107	30,982	100
	中国	29,033	27,207	94
	ニュージーランド	1,593	2,258	142
にんじん	合計	6,525	6,879	105
	中国	6,326	6,524	103
	ニュージーランド	154	310	201
ねぎ	合計	5,485	5,811	106
	中国	5,482	5,809	106

資料：農林水産省「植物防疫統計」  
注1：平成27年7月は速報値。  
注2：輸入数量は、検査数量である。  
注3：冷凍を除く。

## 4 トピック — 平成27年上半年(1～6月)の野菜の輸入動向について —

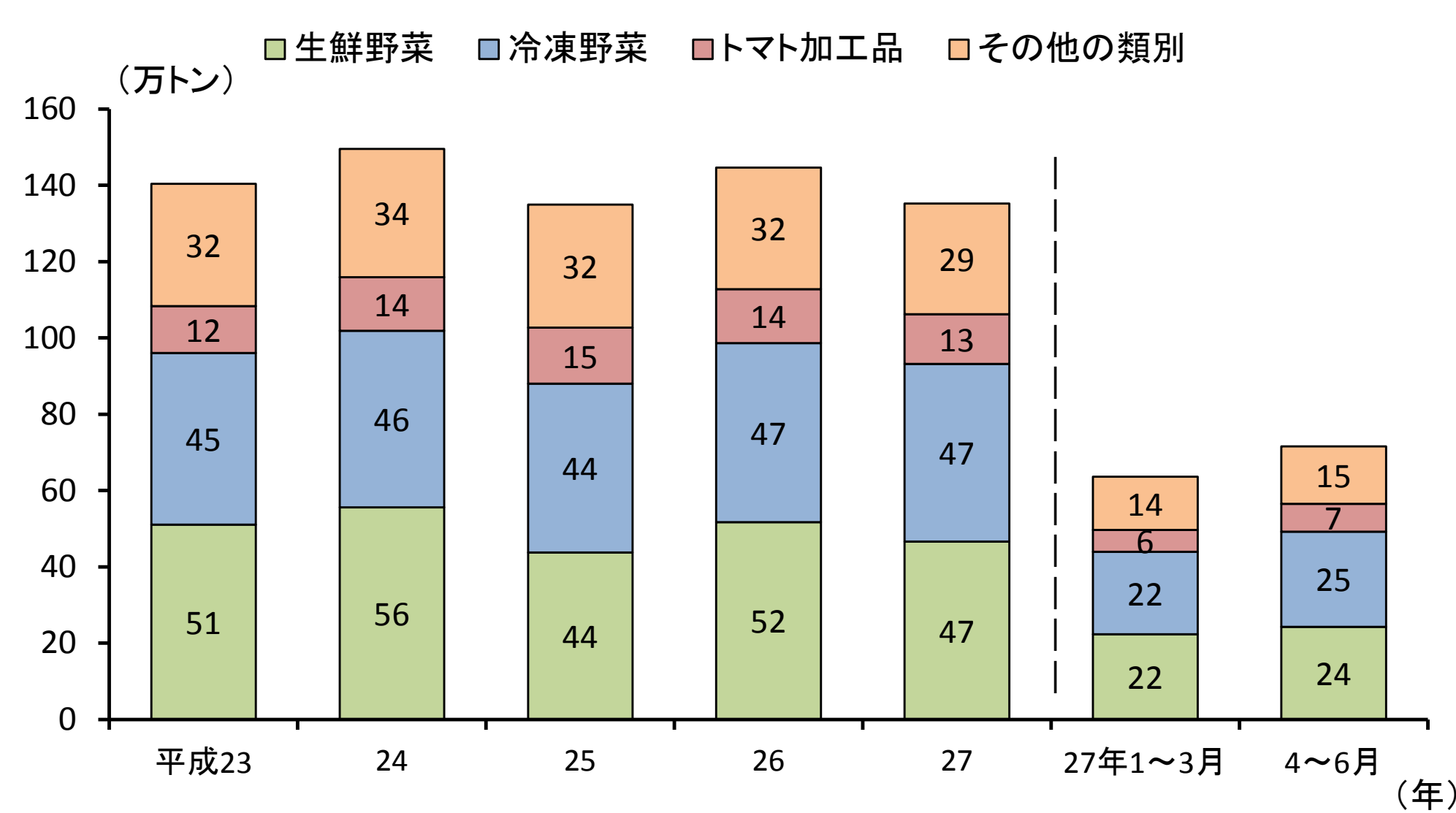
平成27年上半年の野菜の輸入量は、前年同期比6.6%減の135.2万トンとなったが、直近の4～6月期は、国内の天候不順と作柄不良の影響等から、1～3月期に比して12.4%増加した。

類別に見ると、冷凍野菜を除き減少しており、このうち生鮮野菜は前年同期比9.8%減の46.7万トンとなった。減少した主な品目は、ブロッコリー(同43.8%減)、結球キャベツ(同43.7%減)、こぼろ(同19.1%減)、たまねぎ(同13.5%減)等であった。  
このうち、ブロッコリーは米国西海岸の干ばつや港湾ストが、また、輸入の過半を占めるたまねぎは北海道産の潤沢な出回りと中国国内の残留農薬検査の徹底等が、それぞれ影響したとみられる。  
一方、冷凍野菜は、前年同期比0.7%減の46.6万トンとなり、最近ではほぼ横ばい傾向である。増加した主な品目は、スイートコーン(同13.0%増)、ほうれんそう等(同6.3%増)、ブロッコリー(同5.0%増)である。

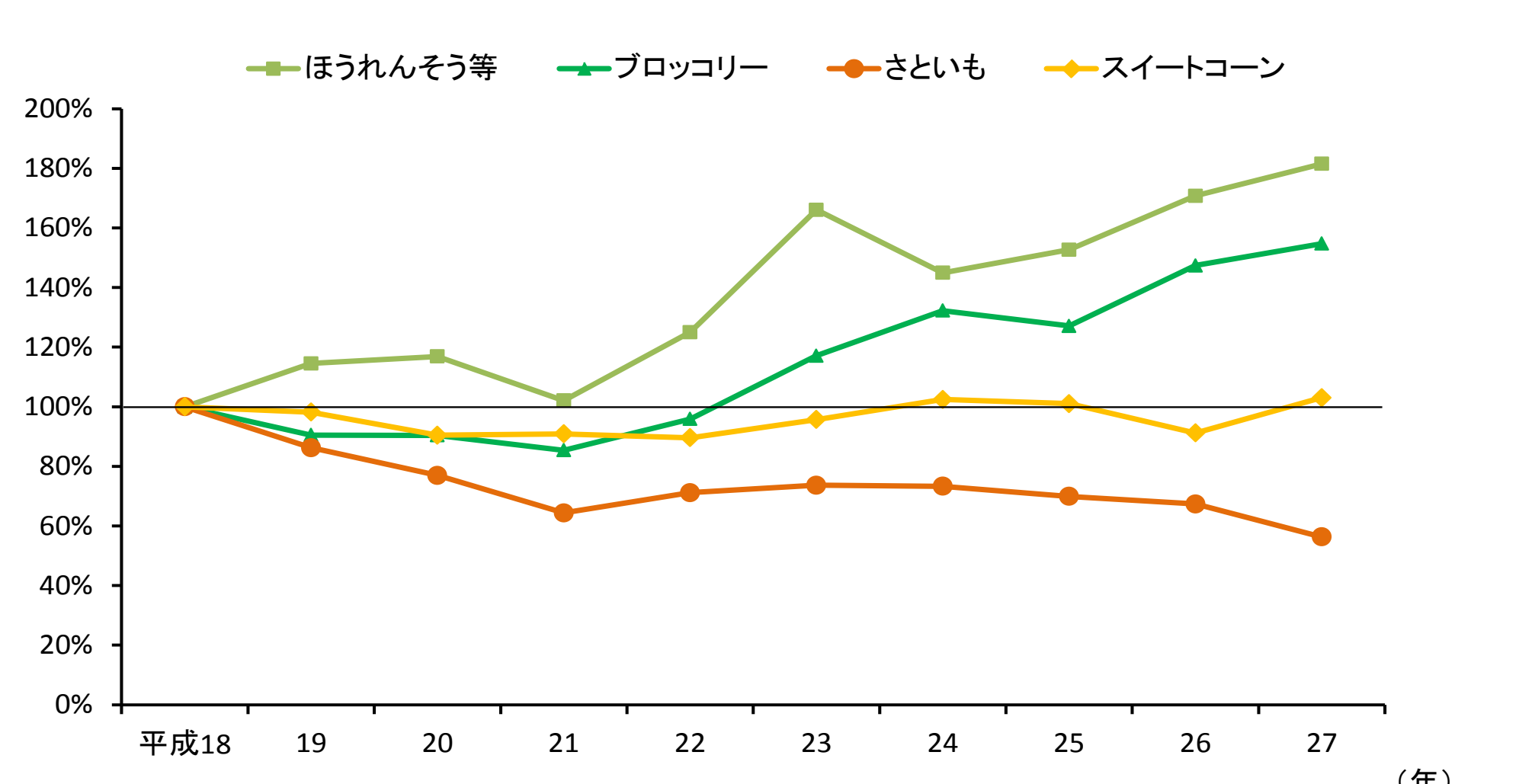
次に輸入金額を見ると、前年同期比5.6%増の2511億円となり、類別では最近では特に冷凍野菜の増加が顕著であり、平成27年も12.7%増加した。また、最近の主な冷凍野菜の輸入量(平成18年=100)の動向を見ると、特に、ほうれん草とブロッコリーが着実に増加している。さらに、輸入単価を見ても最近3カ年は冷凍野菜が特に上昇している。  
このような野菜輸入における冷凍野菜の増勢には、輸入ウエートの高い中国の労賃、資材費・加工費の上昇、最近の円安に伴う単価上昇に加え、ほうれん草やブロッコリーなどの加工・業務用等向けの堅調な国内ニーズの存在があるとみられる。

ブロッコリーは国産比率が6割強を占め、ほうれん草も国産冷凍野菜の生産拡大の動きがみられるが、生鮮野菜の輸入代替に加えて、需要が堅調な冷凍野菜の国内供給体制の強化が求められている。

野菜の類別輸入数量の推移(上半期)

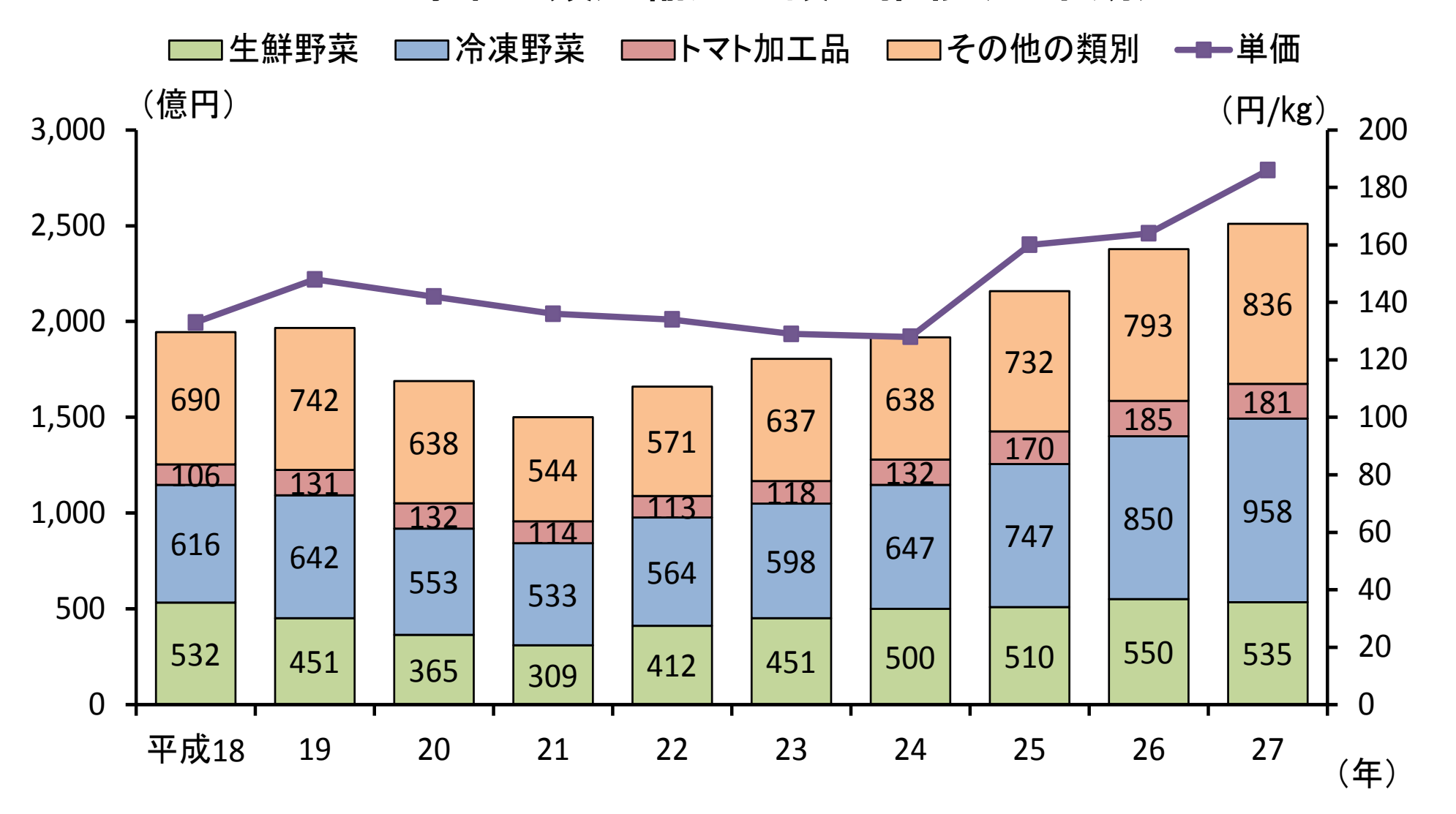


主な冷凍野菜の輸入量の推移(上半期)(平成18年=100)

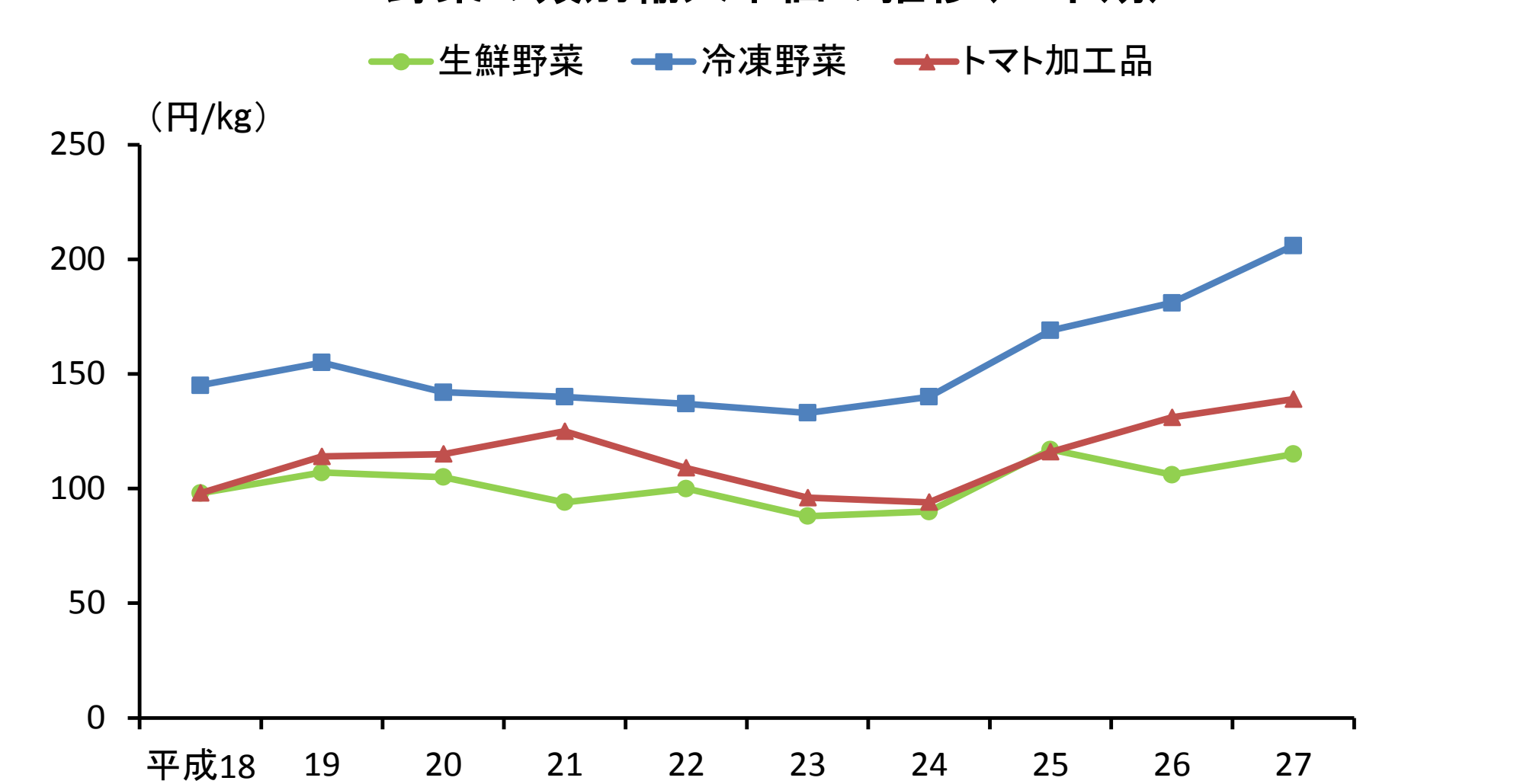


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

野菜の類別輸入金額の推移(上半期)



野菜の類別輸入単価の推移(上半期)



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。  
※無断転載禁止 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。